教育目標

○自ら学ぶ生徒
○自他を思いやる生徒
○健康でたくましい生徒

学校だより

ひらく

第１５号
平成２７年１０月２日発行
須賀川市立第三中学校
ＴＥＬ　７３－２３７７
発行責任者：校長　高崎則行

生徒会活動の屋台骨　３年生から２年生へ

新生徒会役員決定

会　長	小林	杏優（あゆ）（２年４組）
副会長	吉田	真大（まひろ）（２年４組）
	吉田	大晟（だいせい）（１年２組）
書　記	大竹	茉侑（まゆ）（２年３組）
	菊田	茉菜（まな）（１年４組）
会　計	中路（なかじ）	恭輔（きょうすけ）（２年２組）
	有馬	陽平（１年２組）

９月１８日（金）に生徒会役員立候補者による立会演説会と投票が行われ、当選した左記７名に９月２５日（金）、任命書を手交しました。

今年度は１０名の立候補者がありました。これは最近にない数だということで、生徒会活動に対する機運の高まりをたいへん嬉しく思います。また、立会演説会では、どの立候補者に関しても本人・応援演説者ともに素晴らしいスピーチだったので、時間を忘れて聞き入ってしまいました。

新会長の小林杏優さんは「皆さんと学校を創る」と言っていました。副会長の吉田真大くんが、故ケネディ米大統領の言葉をもじって「あなたが生徒会のために何ができるかを考えて実行してほしい。」と訴えました。一般生徒も巻き込んで地道に、しかし確実なうねりを起こしてくれるような予感を感じさせてくれました。その場で私は、「足跡の残る生徒会」とメモをしました。生徒会総会という峠、校内文化祭という山頂にはきっとたくさんの足跡が残るでしょう。でも、新役員たちは、それをつなぐ登山道にも一筋の足跡を残し、峠から見る風景や山頂の景色をより感動的なものにしてくれるのではないかと密かに期待しています。

１０月１５日（木）、１６日（金）の校内文化祭「華王祭」が終了すると、三中生徒会の屋台骨は２年生に引き継がれます。これまで自分を成長させながら生徒会を引っ張ってきた３年生は、いよいよ巣立ちの準備に専念しなければなりません。高校入試という壁にどのように立ち向かうか、感動的な卒業式を迎えるためにクラスメイトとの関係をいかに濃密なものにするか、そこで頑張ってほしいと思います。やがて１、２年生はその背中を追いかけます。

道徳性の発達からみると、小学校に入ったころから相手の立場に立って考えられるようになり、小学校高学年あたりから第三者の視点で物事を考え判断できるようになります。この第三者的な視点を獲得すると、「公正」「公共」ということも考えられるようになります。しかも、みんなのためにどんな実績を残したかということよりも、みんなのためにいかに努力してくれたかという姿勢を高く評価するようになるそうです。立候補した生徒たちはもちろんですが、このような望ましい発達を遂げている生徒が大勢いるんだろうと思います。しかし、落選したらどうしようとか、今よりも忙しくなったら自分に務まるだろうかという不安が大きくて、立候補できなかった生徒も少なくないだろうことは十分想像できます。立候補した生徒は、そういう困難を退けた勇気ある生徒たちなのでしょう。



残念ながら３名の生徒は、今回落選となりました。しかし、信頼の１票を投じてくれた人はたくさんいたのです。その信頼に応えるために、これまでと変わらず、学校のため、みんなのために活動してくれるものと私は信じています。それは、とても美しい生き方だと私は思います。

体育で「並行授業」を実施



ダブルダッチに挑戦

９月２８日（月）、小中一貫教育の初の試みとして、小学６年生と中学１年生の体育で「並行授業」を実施しました。

ここでいう「並行授業」とは、異なる学年で、同じ領域の学習を隣接した学習空間で行うことです。このことにより、今やっている活動が将来の学年のどのような活動に発展するのか、また、今の学習活動が過去の学年のどのような活動の上に成り立つのかという見通しを持たせ、学習の充実を図ることです。この日は、小学生に長縄跳びの発展になる２本の長縄を使ったダブルダッチを交流の中で経験させました。中学生は、小学生に手本を示しながら親切に教えようと努力しました。小学生は、並行授業終了後も難しいダブルダッチに嬉々として挑戦していました。

今後も取組みの成果を検証し、施設が隣接していることのメリットを生かした実践を追求してまいります。

各種表彰の記録

第１３回福島県中学校水泳選手権大会

３年女子100m自由形　第３位　曽我　咲瑛



県中・県南中学校新人陸上競技大会
（兼　福島県中学校新人陸上大会予選会）

１年男子１５００ｍ　第３位　須藤　雄哉

第28回夏季中学生ソフトテニス大会

共通男子の部　第３位　黒津　悠斗・熊谷　一億
共通女子の部　第２位　名古谷愛美・渡邊　咲希
第３位　秋山　優奈・和泉　那雅
第３位　齋藤　里奈・伊丹　美杜

ＴＢＣ・ＴＵＦこども音楽コンクール会津地区大会

中学校管楽合奏の部　優良奨励賞



須賀川市民体育祭（野球競技）

第１位（稲田中・大東中との連合チーム）

第４回中学交流南東北ソフトテニス大会

女子団体２位トーナメント　第２位





ものは試し、「学習のゴールデンタイムを活用する」

本紙第１０号で、脳科学の成果を踏まえた「効果的な勉強方法」を紹介しました。今回は、同じ図書（「受験脳の作り方　脳科学で考える効果的な学習方法」池谷裕二著　新潮文庫）から、学習効果が高まる時間について紹介します。お子さんと一緒に読んで参考にしていただければ幸いです。

難しい説明は省いて、結論だけ述べます。

○　寝ている時間は記憶が整理される。規則正しく適度な睡眠をとりましょう。
○　空腹時は記憶がさえる。食事の直前に勉強しよう。
○　就寝前の学習は記憶によく残る。覚えたら忘れないうちに眠りましょう。
○　１週間のリズムでは、金曜日、土曜日が学習効果が高まる。

少なくても３年生は、テストの前の一夜漬けで切り抜けるのはもうやめましょう。受験本番の実力にはなりません。また、部活動をやっている時よりも２時間以上早く帰宅しているはずです。夕食の前は３０分でも１時間でも勉強するようにしましょう。休みの日は、昼食の前も貴重な時間です。また、疲れを取るために昼寝をするのも一つの方法ですが、その昼寝の前３０分も暗記には有効です。１週間の気分転換は日曜日まで我慢し、金曜日と土曜日にまとまった範囲を総復習するとよいでしょう。ただし、規則正しい生活をしないと効果はありませんので、日課表を作って実践するとよいでしょう。